



香港株式市場フラッシュ

香港取引所は LME とコモディティが堅調、IPO も新たな動き

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2022年7月27日号(7月27日作成)

“ニッケル先物約定取消で批判されたLMEは香港取引所傘下”

今年3月上旬、ウクライナ危機に伴い世界3位の生産量を占めるロシア産ニッケルの供給懸念から、英ロンドン金属取引所(LME)ニッケル価格が高騰。3/8に一時前日比2倍に急伸したため、LMEは売買を停止して約定を取り消す異例の対応を取った。価格高騰で損失が膨らんでいた中国のニッケル生産大手企業といった「売り方」は救済されることとなったものの、LMEの対応には先物取引の存在意義に関わる悪しき前例として厳しい批判が集まった。

LMEは2012年に香港取引所(388/HK)に買収されている。約定取消の対応が中国当局の意向だったのではないかとの見方もあるが、株主構成上は上位5位までが香港特別行政区5.9%、JPモルガン・チェース5.4%、UBS銀行4.9%、シティグループ4.7%、ブラックロック4.6%と直接的な影響力の行使には限界がある。それでも、LMEの取引の中心である銅、アルミ、ニッケルともに世界消費の半分前後を中国が占めており、中国当局への配慮があっても不思議ではないという見方も一理あろう。

“LMEとコモディティ堅調、セカンダリー銘柄がプライマリー申請”

香港取引所の業績に占めるLMEとコモディティのウェイトも高まりつつある。2022年1-3月期の業績では、LME市場の1日当たり平均売買枚数が前年同期比10%増の620千枚、前四半期比でも7%増となった。主にLME市場が担うコモディティの営業収益も前年同期比4%増の376百万HKD(香港ドル)と増収だった。銅、アルミ、ニッケルともに昨年から今年1-3月にかけて脱炭素のクリーンエネルギーを志向した電気自動車(EV)の生産・販売増の追い風を受けて取引が増加。今年4-6月の相場下落局面ではヘッジ取引需要の動向が注目される。

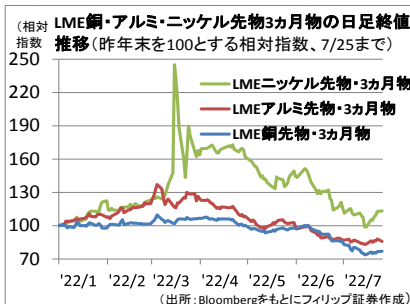
株式や債券に係る有価証券デリバティブ市場の1日当たり平均売買枚数の22年1-3月期は、前四半期比で32%増。これは、シンガポール取引所(SGX)からライセンスの移管を受けた「MSCI中国A50コネク指数」の株価指数先物が同86%増と大幅に伸びたという特殊要因の影響が大きいものの、中国株への投資に係るヘッジ取引需要を今後持続的に取り込むことが期待されよう。

同社全体の22年1-3月期は、新型コロナ感染再拡大や米中対立など地政学リスクが響き営業収益が前年同期比21%減の47億HKD、純利益が同31%減の27億HKD。当面の注目点としては海外上場・香港重複セカンダリー上場銘柄のプライマリー上場申請が挙げられる。アリババ集団(9988/HK)などプライマリー上場により相互取引(ストックコネク)を通じた中国本土投資家マネーの香港市場流入が見込まれる。

香港取引所の四半期ごと主要営業指標および主要セグメント別営業収益

項目	21年1-3月期	21年10-12月期	22年1-3月期	前年同期比	前四半期比
デリバティブ市場・1日平均売買枚数(千枚)	1410.5	1016.5	1342.3	-5%	32%
LME市場・1日当たり平均売買枚数(千枚)	564	580	620	10%	7%
ストックコネク・中国本土向け(北行き)取引金額(10億HKD)	151.8	135.5	131.3	-14%	-3%
営業セグメント別収益(百万HKD)					
現物株式	1820	1316	1379	-24%	5%
有価証券デリバティブ	1011	809	926	-8%	14%
コモディティ	361	379	376	4%	-1%
決済・ポストトレード	2248	1680	1804	-20%	7%
テクノロジー	248	269	276	11%	3%

(出所:香港取引所の決算資料をもとにフィリップ証券作成)



(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全89銘柄)における終値の2021年末末騰落率

前回基準日: 20220712 基準日: 20220726

順位	2021年末末騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	東方海外国際 [オリエン・オーバースーズ]	45.4	4
2	中国海外発展 [チャイナ・オーバースーズ&インベスト]	27.4	1
3	中国海洋石油 [CNOOC]	24.5	2
4	万洲国際 [WHグループ]	24.1	3
5	長江実業集団 [CKアセット・ホールディングス]	17.6	6
6	Kuaishou Technology (快手)	17.5	9
7	中国銀行(香港) [BOCホンコン]	16.3	7
8	Budweiser Brewing Co APAC Lt	15.1	11
9	銀河娛樂 [ギャラクシー・エンターテインメント]	15.0	13
10	中国中信 [シティック]	14.9	10

順位	2021年末末騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
87	SenseTime Group Inc (商湯集団)	-58.7	89
86	舜宇光学科技(集団) [サニー・オプティカル・テクノロジー]	-56.1	88
85	Ming Yuan Cloud Group Holdin (明源雲)	-55.3	87
84	CG SERVICES (碧桂園服務)	-51.6	82
83	小鹏汽車	-47.0	80
82	碧桂園控股 [カントリー・ガーデン・ホールディングス]	-44.9	81
81	申洲国際集団控股 [シェンジョウインターナショナルG]	-43.0	84
80	華虹半導体 [ファホン・セミコンダクター]	-42.9	83
79	ピリピリ	-42.6	86
78	創科実業 [テクトロニック・インダストリーズ]	-41.9	85

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2022年7-8月の中国主要経済指標】

●7月15日(金)

- ・6月小売売上高<前年同月比>: 前回▲6.7%、結果+3.1%
- ・6月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+0.7%、結果+3.9%
- ・1-6月固定資産投資<前年同月比>: 前回+6.2%、結果+6.1%
- ・1-6月不動産投資<前年同月比>: 前回▲4.0%、結果▲5.4%
- ・6月住宅販売金額<前年同月比>: 前回▲34.5%、結果▲31.8%
- ・6月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.17%、結果▲0.10%

●7月20日(水)

- ・1年ローン・プライムレート: 前回3.70%、結果3.70%
- ・5年ローン・プライムレート: 前回4.45%、結果4.45%

●7月27日(水)

- ・6月工業利益<前年同月比>: 前回▲6.5%、結果+0.8%

●7月31日(日)

- ・7月製造業購買担当者景気指数 (PMI): 前回50.2
- ・7月非製造業購買担当者景気指数 (PMI): 前回54.7

●8月1日(月)

- ・7月(財新)製造業購買担当者景気指数 (PMI): 前回51.7
- ・7月(財新)サービス部門購買担当者景気指数 (PMI): 前回54.5

●8月7日(日)

- ・7月外貨準備高: 前回3.071兆USD
- ・7月貿易収支: 前回+979.4億USD
- ・7月輸出<前年同月比>: 前回+17.9%

●8月10日(水)

- ・7月消費者物価指数 (CPI) <前年同月比>: 前回+2.5%
- ・7月生産者物価指数 (PPI) <前年同月比>: 前回+6.1%

●8月9日(火)~15日(月)

- ・7月資金調達総額: 前回5兆1,700億元
- ・7月新規人民元建て融資: 前回2兆8,100億元
- ・7月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+11.4%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。